

Recherche 000012 スタンダードカットソー仕様書

ニット用

パターンパーツ数 15

～付属品～

伸び止めテープ(ウーリースピンテープ)

接着芯

留め具

サイズ	70	80	90	100	110	120	130	
身丈	31	33	36	39	42	44	46	
バスト	44	47	50	53.6	57	61	64	
天巾	10.4	10.6	11	11.3	12	12.4	12.8	
肩巾	18	19.2	21	22.2	24	25.5	26.5	
袖丈	半袖	8.2	8.6	9.2	9.5	10	10.5	11
	長袖	23	27.5	31	35	40	43	46
	パフ	8.3	8.8	9.2	10	10.5	11	11.5
	ニット用パフ	8.3	8.6	9	9.5	10	10.5	11.5
	チューリップ	8.6	8.8	9.2	9.5	10	10.5	11
	ダブル(下袖)	8.7	9	9.3	9.6	10	10.5	11
タートルネック衿高	7	7	7.2	7.5	7.7	7.9	8.1	

オリジナルパターン・仕様書の著作権・販売権は Recherche が所有しています。
いかなる理由であっても、オリジナルパターン・仕様書の無断転用・複写・流用及び転
売はご遠慮ください。

■ 用語

CF(センターフロント).....前中心

CB(センターバック).....後中心

SL(ショルダーライン).....肩線

AH(アームホール).....袖ぐり

SNP(ショルダーネックポイント).....肩線の衿側

空ロック.....布端処理等に用いる、縫い合わせをしないロック

コバステッチ.....1~2 mmの端ミシン

■ 裁断前に必ず地直しを行ってください。

■ 半袖及び長袖はシースリーブ(腕にフィットした袖)ですので、ご希望の長さにカットすることも可能です。

■ 生地のコバステッチは中～高がおすすです。

■ 二本針四本糸ロックミシン使用を想定しています。それ以外の場合は着用し辛くなったり、糸切れの原因になりますのでご注意ください。

----- 作り方 -----

裁断

地の目線を確認し、生地の方向や伸びに注意しながら裁断します。

ノッチ(合印)を入れます

裁断時、わ になった部分にもノッチを入れます。(FC、BC、衿)

「肩先」、「袖山」、「チュールスリーブの袖山の合印」及び「パフスリーブ」、「パフスリーブ・ニット用」、「ダブルスリーブ」のギャザー止まりの合印には切り込みを入れません。

※チャコペン等でしるしを付けます。

※ノッチとは、縫い代に 0.3 cmほどの切り込みを入れることです。

※ノッチを深く入れすぎるとほつれやすくなりますので注意します。

※各所縫い合わせの時はこのノッチどうしを合わせます。

伸び止めテープ・接着芯を貼ります

「後身頃の裏の肩あき部分の縫い代」に伸び止めテープもしくは接着芯を貼ります。

(※パターンに指示あり)

「衿の裏の止め具の位置～縫い代」に伸び止めテープもしくは接着芯を貼ります。(※パターンに指示あり)

チュールリップスリーブ、ダブルスリーブをニットで作る場合は「袖口の縫い代の裏」に伸び止めテープを貼ります。

その他

パターンには芯を貼る位置やステッチの巾等の指示が書いてありますので、本仕様書と共に確認しながら作業を進めてください。

(※袖付けの工程において「直線ミシンで縫い固定(画像赤いライン)」する指示がありますが、手縫いでもかまいません。)

パフスリーブには「ニット用」と「ニット・布帛共通(袖口ゴム)」の2種類があります。

空ロックをかけます

3 mm切り落としながら5 mm巾の空ロックを「前・後身頃の肩あき部分の縫い代」にかけます。

衿ぐり・肩あき

衿を中表に半分に折り、出来上がり線を直線ミシンで縫います。

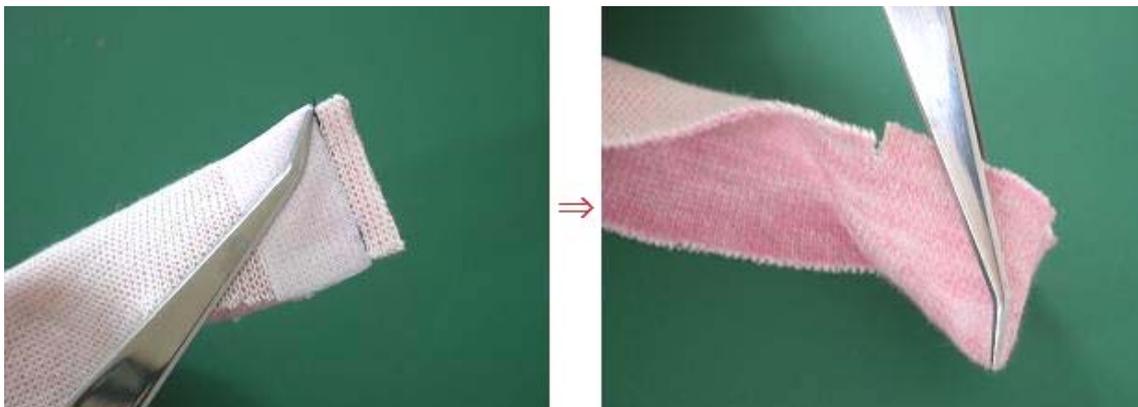
縫い代の輪になった部分に、出来上がり線手前の位置まで切込みを入れます。



縫い代を5 mm切り落とします。



衿を表に反します。



※ ピンセットを使うと角がきれいに出ます。

「前身頃」と「前衿」を中表に重ね、前身頃あき部分を出来上がり線で折ります(前衿を挟みます)。

※ 前衿の端は前身頃あきの出来上がり線に合わせます。

※ 前後の身頃と衿の組み合わせを間違えないように注意します。





出来上がり線にかからないように縫い代部分を直線ミシンで縫い固定します。
(左画像の赤いライン)

反対側も同様に縫い固定します。



5 mm切り落としながら 5 mm巾ロックで「前身頃」と「前衿」を縫い合わせます。

※ノッチを合わせながら縫い進めます。



あき部分を表に反し、出来上がり線で折り、直線ミシンでステッチをかけます。

完成時に前身頃が上になるよう考慮し「留め具」を付けます。

※ ボタンを使用する場合はホールを開けボタンを縫い付けます。

※ 留め具を付けることで縫いずれしやすいあき部分を固定します。

「後身頃」と「後衿」も同様にします。

「留め具」は留めておきます。

■半袖・長袖■

3 mm切り落としながら5 mm巾の空ロックを「袖口」にかけます。

「袖口」を出来上がり線で折り返し、直線ミシンでステッチをかけます。



「身頃」と「袖」を中表に重ねます。

※左右の袖を間違えないように注意します。

「前・後身頃の肩先の合印」と「袖山の合印」を重ね、出来上がり線にかからないように縫い代部分を直線ミシンで縫い固定します。

(左画像の赤いライン)



5 mm切り落としながら5 mm巾ロックで「身頃」と「袖」を縫い合わせます。



-----P12へ続きます-----

■パフスリーブ・ニット用■

縫い目の長さを大きくします。

上・下糸を予め長めに出しておき、「袖口のギャザー寄せ」部分に粗ミシンをかけ、糸を長めに残して切ります。



※粗ミシンは出来上がり線より縫い代側 2 mm の位置と 4 mm の位置です。

※合印より 1~2 針多く縫います。



粗ミシンの下糸を 2 本同時に引きギャザーを寄せます。(※パターンに寸法指示あり)

※ギャザーが落ち着かない時はアイロンを縫い代部分のみにかけます。

「ニット用袖口パーツ」を外表になるよう半分に折り、「袖の表」に重ねる。



5 mm 切り落としながら 5 mm 巾ロックで「袖」と「袖口パーツ」を縫い合わせます。



P7の袖口と同様に「袖山」に粗ミシンをかけます。



左右の袖を確認し、「身頃の肩先の合印」と「袖山の合印」が合うように中表に重ねます。

縫い目の長さを元に戻します。

出来上がり線にかからないように縫い代部分をミシンで縫い固定します。(※左画像の赤いライン)



下糸を2本同時に引き、ギャザーを寄せます。(※パターンに寸法指示あり)

※上糸を引いてもギャザーは寄りますが、下糸を引いた方が落ち着きのよいギャザーになります。

※ギャザーが落ち着かない時はアイロンを縫い代部分のみにかけます。

5 mm切り落としながら5 mm巾ロックで「身頃」と「袖」を縫い合わせます。

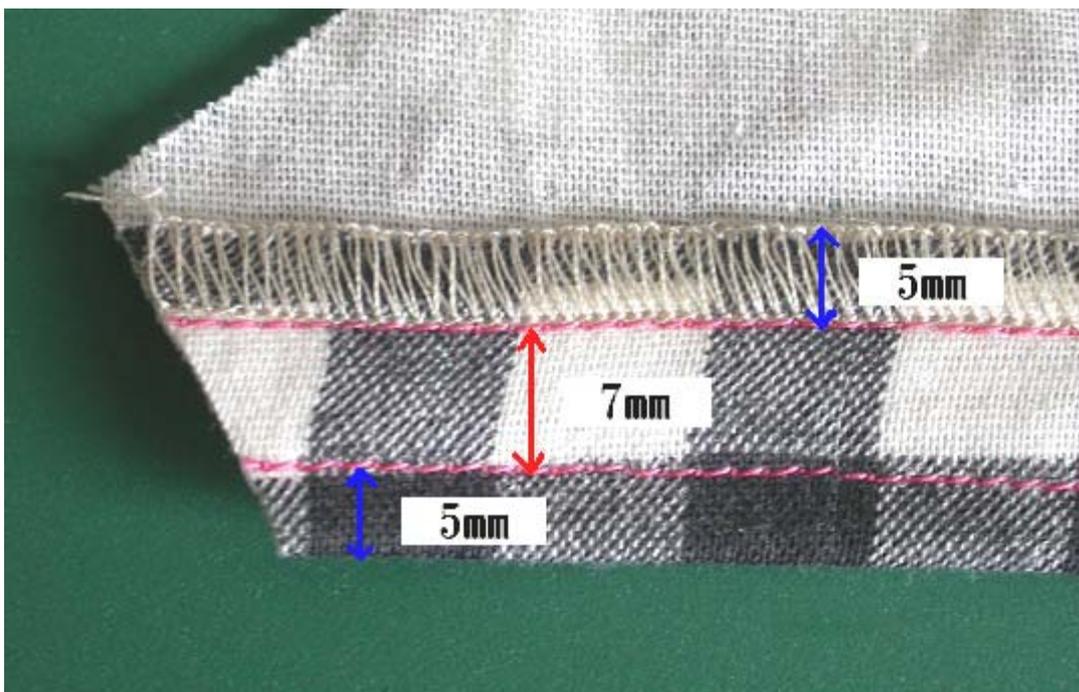
-----P12へ続きます-----

■ パフスリーブ ■ ※ニット・布帛共通パターン

3 mm切り落としながら 5 mm巾の空ロックを「袖口」にかけます。

「袖口」を出来上がり線で折り返し、直線ミシンでステッチを2本かけます。

(※出来上がり線から上に 5 mmの位置に1本と、1本目から更に上に7mmの位置に1本)



上の段に 5 mm巾のゴムを通し、両端をミシンで縫い付けます。(※パターンにゴム寸法の指示がありますが、体型により調整してください。)

※ ゴムが縮んで入り込んでしまわないように、カット寸法で印を付けておき、縫い付け後にカットします。

P8の要領で粗ミシンをかけ、身頃の肩先に袖山を固定し、ギャザーをよせます。

5 mm切り落としながら 5 mm巾ロックで「身頃」と「袖」を縫い合わせます。

-----P12へ続きます-----

■ダブルスリーブ ■ ※ニット・布帛共通パターン

ニット地を使う場合は「袖口の縫い代の裏」に5mm巾の伸び止めテープを貼ります。

3mm切り落としながら3mm巾の空ロックを「上袖口」「下袖口」にかけます。

「袖口」を出来上がり線で折り返し、直線ミシンでステッチをかけます。

※ 袖をより軽く仕上げたい場合は出来上がり線で巻きロックをかけます。

「上袖」と「下袖」を重ね、2枚一緒にP8の要領で粗ミシンをかけ、身頃の肩先に袖山を固定し、ギャザーをよせます。

5mm切り落としながら5mm巾ロックで「身頃」と「袖」を縫い合わせます。

-----P12へ続きます-----

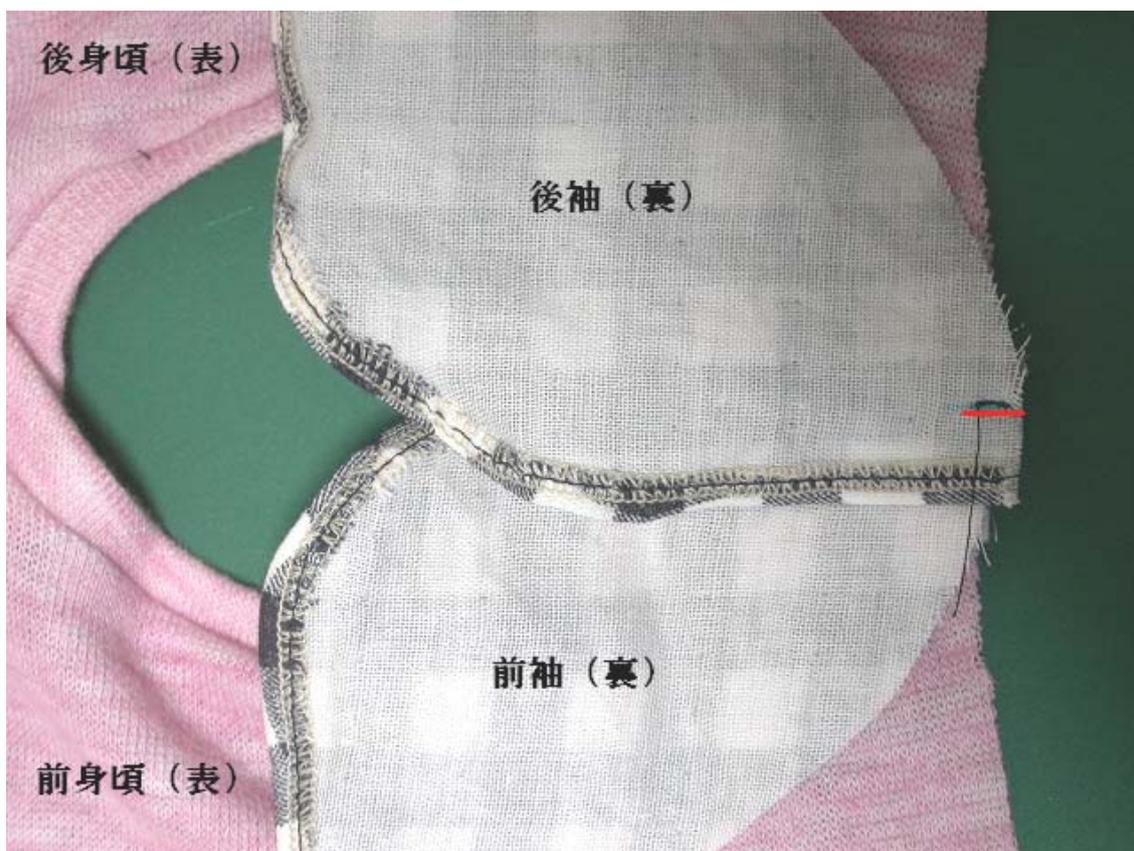
■ チューリップスリーブ ■ ※ニット・布帛共通パターン

ニット地を使う場合は「袖口の縫い代の裏」に 5 mm巾の伸び止めテープを貼ります。

3 mm切り落としながら 3 mm巾の空ロックを「前袖口」「後袖口」にかけます。
※カーブが急な部分は差動をかけます。

「袖口」を出来上がり線で折り返し、直線ミシンでステッチをかけます。
※ 袖をより軽く仕上げたい場合は出来上がり線で巻きロックをかけます。

「前袖の合印」と「後袖の合印」を合わせ、「身頃の合印」と中表に重ねます。
出来上がり線にかからないように縫い代部分をミシンで縫い固定します。(※下画像の赤いライン)



※ 完成時は前袖が上になります。

5 mm切り落としながら 5 mm巾ロックで「身頃」と「袖」を縫い合わせます。

-----P12 へ続きます-----

ロックをかけます



5 mm切り落としながら 5 mm巾ロックで「袖下」～「前・後身頃の脇」を縫い合わせます。



「身頃」と「袖」を表に反します。

「袖口の縫い代」を後身頃側に倒し、ステッチで押さえます。



「裾」を出来上がり線で折り、直線ミシンでステッチをかけます。

※カバーステッチミシンがある場合はそちらをお使いください。



完成